

第1943回埼玉県教育委員会定例会

- 1 日 時 令和4年11月22日(火) 午前10時開会
午前11時2分終了
- 2 場 所 埼玉県教育局教育委員会室
- 3 出席者 高田教育長、戸所教育長職務代理者、坂東委員、小林委員、首藤委員、櫻井委員、古垣教育総務部長、石川県立学校部長、石井市町村支援部長、小谷野教育総務部副部長、栗原市町村支援部副部長、松本文化資源課長、小中学校人事課管理主事
案浦書記長、岩崎書記、原口書記、森田書記
- 4 会議の主宰者 高田教育長
- 5 会 議
- (1) 前回議事録の承認
- 全出席委員異議なく本件記載どおり承認
 - 高田教育長が、首藤委員を議事録の署名者に指名した。
- (2) 報告事項
- 彩の国かがやき教師塾について
- 栗原市町村支援部副部長(提出理由、本県の教員採用に係る課題と解決の方向性、新規事業「彩の国かがやき教師塾」について、「彩の国かがやき教師塾」ベーシックコースについて、「彩の国かがやき教師塾」ベーシックコースの実施状況(例)、「彩の国かがやき教師塾」マスターコースについて説明)
- 戸所教育長職務代理者 教員養成セミナーから彩の国かがやき教師塾に発展的に変更しました。教員養成セミナーは、15期生941名を教員として輩出するなど実績がありますが、反省点や課題があり、彩の国かがやき教師塾に変わっ

ただだと思います。こういったところに課題があって、彩の国かがやき教師塾に変わったのか教えてください。大きな課題は、先生を目指す学生を増やすことですが、15年間継続する中で時代も変わり、いろいろと課題があったと思います。また、彩の国かがやき教師塾では、講演、講義、演習がありますが、私が学校訪問等を行う中で感じたのは、現場には非常にやりがいを持っている先生がたくさんいました。私が必要だと思うのは、そういった先生の考え方を学生が聞くことで、学生の心が動いたり、刺激を受けたり、勇気をもらったり、ときには反省できることだと思います。そのような先生が学生に対して話す機会があるのでしょうか。

栗原市町村支援部副部長 教員養成セミナーの課題ですが、小学校の教員志望者のみが対象だったことです。そのため、彩の国かがやき教師塾では、ベーシックコースでもマスターコースでも中学校の教員志望者も対象としています。また、教員養成セミナーでは、50名程度としていましたが、できるだけ多くの学生を対象とするためベーシックコースは200名、マスターコースは小学校60名、中学校20名としました。さらに、教員養成セミナーの対象は大学3年生でしたが、大学3年生の時期では進路が決まっている状況なので、1学年早めたベーシックコースを始めました。教員のすばらしさを理解してもらい、教員の志願者を増やしたいと考えています。また、委員お話のとおり、優秀な教員からいろいろと学ぶことは多いと思います。そのため、彩の国かがやき教師塾のマスターコースでは、「優秀な教員に学ぶ」という講座があります。また、学生は各学校に実習に行っており、いろいろな先生と話をし、良いところや指導方法を学べる機会があります。

戸所教育長職務代理者 小学校の教員が対象だけだった教員養成セミナーでは、15年間継続する中で反省や課題はなかったのでしょうか。

石井市町村支援部長 教員養成セミナーは、小学校だけを対象としてきましたが、中学校も対象とするべきではないかと大学等から御意見もあり、検討してきました。今まで中学校は、ある程度志願倍率が確保できていたこともあり、そうした観点からも小学校を対象としてきました。しかし、彩の国かがやき教

師塾を検討するに当たって、今後の教員離れをさせないためにも中学校も対象とした経緯がございます。

戸所教育長職務代理者 中学校を加えたことはいいことですが、15年間継続してきた教員養成セミナーの全てが良ければいいのですが、いろいろな課題があったため彩の国かがやき教師塾になったのではないかと私は感じました。15年間継続してきた中で、世の中も変わり、考え方が変わるなど事業の内容も変わると思います。継続してきた中で反省した点や課題をどのようにしてきたのか、質問をしました。

小中学校人事課菅管理主事 委員御指摘のとおり、教員養成セミナーを行う中で毎年課題が出てきている状況でした。この内容で良かったのか、その都度講座についてブラッシュアップしてきました。例えば、不祥事が増えた時期は、講座で不祥事防止の講義を行いました。大学の先生を集めた年1回の連絡協議会でも様々な御意見を頂き、講義の内容を変えて充実してきました。彩の国かがやき教師塾は、採用の倍率という大きな課題がある中で、中学校を対象とするなどスキームを変えて新しい事業に変更しました。

戸所教育長職務代理者 この事業に限らず、計画や事業を実施した後に計画の振り返りがあり、経験をして学んだことを次の計画に生かすことは当然の流れだと思います。一般の会社も行っており、過去の振り返りがあるからこそ新しい考え方が出ると思います。いずれにしろ、彩の国かがやき教師塾を実施することで、教員の魅力を伝えることができ、志願者が増えることは良いことだと思います。

首藤委員 以前は、義務教育の教員養成は国立大学で行い、それ以外は私立の大学で行っていました。現在は、私立大学でも小学校教員の養成を行っています。そのため、私立大学はたくさんありますので多面的な連携を深めることが必要だと思いました。一つ確認したいことは、ベーシックコースの実施期間は今年7月から翌年の10月の時期ですが、学生は大学2年生から大学3年生になるまでが対象で、マスターコースの実施期間は1月から翌年の1月の時期ですが、学生は大学3年生から大学4年生になるまでが対象という理解でいいで

しょうか。

栗原市町村支援部副部長 そのとおりです。

首藤委員 彩の国かがやき教師塾は34大学で連携していますが、大学との協調が求められると思いますが、単位として認めている大学はどのくらいあるのでしょうか。

小中学校人事課菅管理主事 ベーシックコースについては、例えば淑徳大学や十文字学園女子大学では、大学独自に学校に行って体験する授業を展開していますので、その体験授業の単位を読み替えて一緒に行っており、お互いにやりやすいように大学と連携しています。また、年1回の連絡協議会で十分に意見交換しながら進めています。

首藤委員 ベーシックコースの実施時間は60時間以上ですが、大学では45時間以上が1単位であり、上手く大学が単位化しないと、学生の負担が大きいのではないかと感じました。大学2年生は、教養科目や専門科目があり、教職の科目もあるため、忙しいのではないかと思います。60時間以上のマスターコースでは、上手く大学と足並みを揃えて、学生が参加しやすいような制度にこれからも少しずつ変える必要があると思います。大学2年生から始まるベーシックコースは、とても意味があると思います。最初に経験するのが教育実習だと学生にとってハードルが高く、失敗経験をすると自分は教員に向いていないと感じてしまう学生もいました。教員養成セミナーもそれに近いところがあったため、なかなか希望者が集まらない状況でした。しかし、ベーシックコースにある学校体験ボランティアは、学生にとって有意義な経験になると思いますので、上手く進めてほしいと思います。また、受入側の学校には、実習とどこが違うのか、どういった関わりをしてほしいのか、迷わないように丁寧に説明をしてほしいと思います。

石井市町村支援部長 委員お話のとおり、実施日数は60時間以上80時間を限度にしていますが、大学2年生、3年生でも長期休業中に実施するなど学生が大学の授業にしっかり参加できるような期間を検討してきました。先日、参加している学生に話を伺う機会がありました。学生は、「教育実習では多少難し

く感じるが、授業のサポートすることが非常に楽しい。今後は、教員の仕事をしっかり考えてみたい。」との話をしていました。実施日数については、今年度実施してみた上で、大学等からも御意見を伺い、今後も検討していきます。

櫻井委員 ベーシックコースとマスターコースの関係ですが、ベーシックコースを体験し、教員になりたいと思った学生は、マスターコースに参加することはできるのでしょうか。また、目的の一つに優れた教員の確保とありますが、マスターコースに参加した優秀な学生は、埼玉県の教員として採用してほしいと思いますが、マスターコース終了後のリクルート活動は考えているのでしょうか。

栗原市町村支援部副部長 ベーシックコースに参加した学生が教員の良さを感じ、マスターコースを希望した学生は、マスターコースに応募することができます。また、マスターコースで学んだ学生は、是非埼玉県の教員になってほしいと考えています。そこで、マスターコースの受講者は、特別選考という形で教員採用選考試験の一次試験の免除を考えています。

坂東委員 受入側の学校の先生たちは、通常の業務に加えて彩の国かがやき教師塾の対応のための業務が増えてしまうと思いますが、負担の軽減はどのように考えているのでしょうか。

栗原市町村支援部副部長 各学校において体験実習をしながら指導してもらいますが、その他に専任講師を採用し、受講生が学校に行ったときの様子を見て、専任講師が個別に学生を指導しています。

坂東委員 医療現場においても、学生を現場で受け入れています。通常の業務を減らし、後輩の育成業務に対応をしているときがあります。その辺りを考えて進めてもらえればと思います。

小林委員 一般企業でいうインターンシップと同様であり、非常に良い取組だと思います。今までは教員になりたいと思っていた学生が、一般企業のインターンシップに参加し、一般企業に流れてしまうこともあったかもしれませんが、対象者を大学3年生から大学2年生に早めており、成果を期待したいと思います。ベーシックコースは、185名が参加するとの説明がありました。ベーシッ

クコースの参加者は、参加したい人が全員参加しているのか、それとも選考があったのか、教えてください。また、マスターコースは、133名の希望者のところ80名が参加するとのことですが、マスターコースの選考に漏れた53名については、フォローをどのようにしているのか教えてください

栗原市町村支援部副部長 委員お話のとおり、一般企業のインターシップと同様に、早いうちに教員の業務を経験して、教員の良さを理解してもらい、教員を志望してほしいと思います。ベーシックコースの参加者は、県教育委員会で希望者に対し面接を行っていますが、今回は希望者全員が参加しています。マスターコースの選考から漏れた53名のフォローについては、今後検討中です。

小林委員 教員採用に係わる課題で 採用試験倍率に左右されない教員志願者の質の向上との説明がありました。マスターコースの選考から漏れてしまった53名は、他の自治体の同じよう事業に参加して他の自治体の教員になってしまったり、一般企業を希望するなどしてしまうかもしれません。学生側からしても、彩の国かがやき教師塾に参加できなかった場合、埼玉県で教員になれないのかと感じてしまうかもしれませんので、マスターコースに参加できなかった学生に対しても、何らかの対策をしてほしいと思います。また、最近埼玉県でもペーパーティーチャーなどの動きがありますが、この事業の対象者を一般の社会人も対象に含めるなどの考えはありますか。

栗原市町村支援部副部長 現在のところ、ペーパーティーチャーなどの一般の社会人を対象とすることは、検討していませんが、今年度の実施状況等を見ながら検討をしていきます。

高田教育長 様々な御意見を頂きありがとうございました。マスターコースをもっと増やした方がいいのではないかと御意見があると思いますが、マスターコースの学生には、専任の講師を付け、教員になるための専門的な教育をしており、マスターコース修了者に対しては、教員採用選考試験では、特別選考の対象とすることを考えています。課題としては、指導者の確保と学校の受入体制をどのくらい確保できるのかがあります。また、採用選考は、公平・公正に行う必要がありますが、特別選考を行うに当たり、選考の公正性をゆがめる

ような採用枠になっていけないということで、慎重に考えながらマスターコースの人数の枠を設定しました。マスターコースの選考に漏れてしまった学生がいますので県として何らかのフォローしながら、埼玉県採用選考試験を受験してもらえるよう検討していきたいと思います。今年度から始める新規事業ですが、まずは大学2年生から、気軽に1年間学校に行ってもらい、子供たちと触れ合う中で、子供の成長振りが目に見えて分かることにより、子供の成長の手助けになることを体感してもらいたいという思いがあり、大学2年生に枠を広げました。そこで確固たる意志を持った学生は、マスターコースに参加してもらい、採用選考までしっかり勉強をしてもらう仕組みを考えました。実施すると様々な課題が出ると思いますが、しっかりと振り返りをした上で、改善に向けて取組を進めていきたいと考えています。

(3) 次回委員会の開催予定について

12月1日(木) 午前10時

<非公開会議結果>

第80号議案 埼玉県立近代美術館協議会委員の任免について

博物館法及び埼玉県立近代美術館協議会条例の規定に基づき、埼玉県立近代美術館協議会委員の職を解くとともに、補欠の委員を任命することを決定しました。

第81号議案 県議会令和4年12月定例会提出予定案件について

県議会令和4年12月定例会提出予定案件の原案を決定しました。

第82号議案 教職員の懲戒処分について

非違行為を行った東部地区・公立小学校の男性教諭(24歳)に対して、3か月間、給料の月額額の10分の1を減給する懲戒処分を決定しました。